



普通科における地域貢献活動

一 はじめに

本校に赴任して四年目になる。「普通科進学校」として、生徒・職員の意識改革を推し進めてきた。しかし、赴任して二年目（平成二十六年）には自然減を招き、生徒募集がまったなしとなった。勉強だけでなく部活動や地域活動で生徒の生き生きとした活動を中学生や地域の方々にPRする必要がある。そこで、二年目からスクールアイデンティティを「地域に信頼される普通科進学校」とした。地域活動に積極的に取り組むことで、地域の課題を知り、地域の大人を巻き込み、学びの内面化を図ることができる。生徒・職員は積極的に地域貢献活動に取り組んでくれた。以下、その取組を紹介したい。

二 地域貢献活動

平成二十六年度がスタートしてまもなく、模索しながら二年生の「総合的な学習の時間」で地域貢献に取り組むことにした。地域興しの方々に話をしていただき、学校近辺の清掃活動に取り組んだ。そのことは様々に波及し、ゴミ拾い等に取り組む部活動も出てきた。

大きく動いたのは、二十六年秋に撤去工事

大口高 山之内 伸明

が始まる曾木大橋の周辺を巡る「さいなら曾木はっけんウォーキング」である。この企画は地元NPO法人等の主催であるが、曾木の滝分水路設計に携わった熊本大学院景観デザイン研究室の院生や学生とも交流した。院生らと事前学習を重ね、曾木の滝周辺の魅力を紹介するイラストマップや、参加者へのプレゼントとして缶バッジを作り、イベント前日には曾木大橋に感謝を込めた巨大絵を描いた。たくさん生徒が自主的に参加し、イベントを盛り上げてくれた。

コンセプトは「親しむ」である。地域に親しみを持つには、「学ぶ」（地域を知る）必要がある、地域のために何ができるのか主体的に「考える」必要がある。そして「楽しむ」ことが地域への親しみへとつながるのである。

この経験は、生徒たちを成長させ、熊大院の准教授や院生との交流も続き、二十七年度は、曾木の滝公園で催される「もみじ祭り」を大口高校生がプロデュースした。ステージ班・アート班・フード班・コンシェルジュ班の四班による企画が実施され、大好評だった。

また、本校で講演いただいた平田大一氏演出の「肝高の阿麻和利」を現地沖縄で鑑賞（伊佐市の支援）したことを契機に、「chimudon」が結成された。それは、伊佐市の三つの高校生からなる琉球組踊の高校生チームである。大口高校生が核になり、地域の祭り等で地域を盛り立てている。

その他、「伊佐市地方創生に係るワークショップ」にも参加し、日経BP社の方の指導をもらいながら、「伊佐市に人を呼び込む」方策を練り、伊佐市民に発表した。

また、二十六年から伊佐市教委主催の「英会話教室」や「パワーアップ自習室」（長期休みに小中学生対象）に、大口高校生が学習支援ボランティアとして参加している。二十七年には、「伊佐市民体育祭」に大口高校生の集団演技を披露し、大拍手をいただいた。

三 おわりに

地域貢献活動を通して、確実に「主催者意識」が根付いていると実感している。「ブーメラン人材」と称しているが、上級学校で専門性を高め、地域で活躍できる人材になりたいと考える生徒も多くなっている。



アミューズステージで踊る chimudon